

東日本大震災とデジタル アーカイブを巡って

平成23年6月8日 第3回知のデジタル
アーカイブに関する研究会

国立国会図書館関西館
電子図書館課長 大場利康



- 災害からデジタルデータを守る
- 記録・記憶の重要性を見つめ直す
- 東日本大震災デジタルアーカイブに関する海外の動向

- 原子力・エネルギー問題に関する議論の基盤形成



災害からデジタルデータを守る

- 社会基盤としてのデジタルデータ
 - 自治体の行政情報、戸籍等
 - 医療機関のカルテ等
 - 企業、金融機関の帳簿類
 - デジタルアーカイブ
- 広域災害の場合、サーバ、バックアップデータも丸ごと被災しうる
- データの分散が必要
 - 情報セキュリティの確保との両立



記録・記憶の重要性を見つめ直す

- 災害の記録・記憶と防災・減災
 - － 明治・昭和の大津波
 - 石碑「此処より下に家を建てるな」
 - 吉村昭『三陸海岸大津波』
 - － 阪神・淡路大震災の記録への注目
 - 中井久夫「災害がほんとうに襲った時」[電子データの公開](#)
 - 神戸大学附属図書館 [震災文庫](#)
 - － マスメディアによる記録の共有
 - 神戸新聞 [阪神・淡路大震災](#)



記録・記憶の重要性を見つめ直す

- 国立国会図書館の取組
 - 被災地自治体等のウェブサイトの[臨時収集](#)
 - 各種文献、情報の[提供](#)
- 国内の様々な取組
 - 防災科学技術研究所 [東日本大震災・災害復興まるごとデジタルアーカイブ](#)
 - せんだいメディアテーク [3がつ11にちをわすれないためにセンター](#)
 - 河北新報 [3.11大震災 将来への記憶](#)
 - [Yahoo! JAPAN](#) [Google](#) ...
- 復興過程の記録を担うのは？



記録・記憶の重要性を見つめ直す

- インターネット時代の震災記録
 - 阪神・淡路の際はパソコン通信
 - twitter、mixi等SNSが果たした役割
- 共有と長期アクセスのために
 - 写真、動画、テキスト、地図情報などネット上の情報は多様
 - 壁新聞、掲示、チラシ、文書類などアナログ資料も多様
 - 各種観測データなども
 - 誰が何を持っている／集めるのか？



東日本大震災デジタルアーカイブに 関する海外の動向

- [ARCHIVE-IT COLLECTION: Japan Earthquake](#)
 - Internet Archiveが収集・提供
 - 関連するウェブサイトその他、ビデオ、ブログなども対象
 - ヴァージニア工科大、国立国会図書館、ハーバード大学ライシャワー日本研究所が協力



東日本大震災デジタルアーカイブに 関する海外の動向

- [Digital Archive of Japan's 2011 Disasters](#)
 - 米ハーバード大学ライシャワー日本研究所のプロジェクト(システム構築中)
 - ハーバード大内の関係組織(図書館、地理学分析センター等)、インターネットアーカイブ、国立国会図書館、北米日本研究資料調整協議会(NCC)等と連携
 - 収集対象をソーシャルメディア等を通じて選定



課題

- 日本国内の様々な動きを、どうまとめていくのか？
 - 復興に生かすために
 - 数百年後まで伝えるために
 - 常に生きた記憶とするために
- 海外との連携をどう進めていくのか？
 - 海外に蓄積された情報の共有
 - 海外における災害に関して、日本のデジタルアーカイブにできることは？



原子力・エネルギー問題に関する 議論の基盤形成

- 原子力を含むエネルギー問題が重要な課題に
 - 関連情報は、立場によるバイアスが大きい傾向
 - 議論の基礎となる、いつでも参照できる情報基盤が必要では？